



夏の雷

夏は雷のシーズンであります。特に今年の夏は、雷が多く、例年の2.5倍もあったそうです。原因は、今夏の高気圧の位置。日本をすっぽり覆うはずの高気圧が、今年は東寄りでした。そのため、高気圧の縁を通して南から湿った空気が入りやすくなりました。よって今年は蒸し暑い夏になりました。さらに、上空には冷たい寒気が入りやすい状況でもあったようです。と、いうことで大気は不安定。今年は、雷を伴ったゲリラ豪雨のような雨が何度かありました。

8月18日、土曜日、昼まではよく晴れていました。ところが、科学館では3時少し前からゴロゴロという音が聞こえ出しました。そしてあっという間に激しい雨になりました。バス駐車場が叩きつけられる雨で真っ白に見えました。1時間ほど降ったのですが、58ミリに達する雨でした。短時間にこれだけ降ると排水が間に合わなくなり、水溜まりができてしまいます。浸水騒ぎが起こったのは、降り始めから僅か30分くらいでした。科学館の東側で鉄扉から浸水してしまい、プラネタリウムの入り口が使えない状態になってしまいました。本当にあっというまのことで驚きました。幸いプラネタリウム西側の出入り口が使えましたが、お客様にはご心配とご不便をおかけしました。

さて、みなさんは、雷が近くに落ちた経験はありますか。夏は雷の季節と書きましたが、日本海側で生まれ育った私は、実はピンときません。むしろ冬に多いように思います。でも私の恐ろしい体験をしたのは梅雨時。夜中、田舎道にバイクを走らせていた時です。雨が降ってきて、土砂降り。前方には雷が光ります。ずぶ濡れで家路を急ぎました。

光ってから音が聞こえるまでかなり時間がありました。しかし今思えばこの時、私は極めて危険な状態でした。仮に数秒前に5キロ先に落ちたにしても、雷雲のサイズを考えれば、次の瞬間自分の頭上に落ちて何の不思議もなかったのです。ですから、遠くだから大丈夫！とは決して言えない状況でした。しかも両側が田んぼでしたから、バイク(=鉄の塊)に跨る私が一番高い物体でした。まさに落ちてくださいといわんばかりの状況。

広 告

雷に遭ったら、建物の中に避難することです。車の中でもOKです。建物がない時、中に入れないときは、高いものから離れることが大事です。雷は高いものに落ちやすいからです。

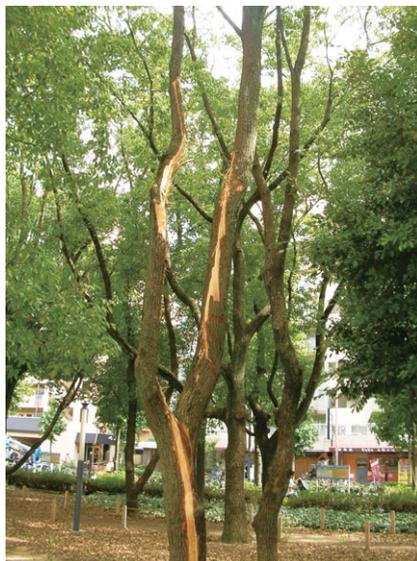
実は軒先の雨宿りも危険です。側激雷の恐れがあります。壁のない東屋で雨宿りしていて亡くなった方もいます。建物や車の中に避難できなければ、高いものから離れてしゃがみこむこと。臥せてはダメです。しゃがむのです。

18日は不幸にも長居公園で2人の方が亡くなってしまいました。落ちた場所は、公園の地下鉄からの入り口から入ってすぐの右手の巾10メートルくらいの緑地帯。当日、コンサートが予定されていて、混んでいたようです。どんな状況だったのか詳しくは分かりませんが、大勢の人が突如の雨を避けるために緑地帯に入ってしまったようです。傘をさした人もいたのかもしれませんが。

もし自分がその場に居合わせたとして、人目もあるのに木から離れて傘もささずにしゃがみこむ退避行動を果たしてとったでしょうか。危ないかなあと思っても、バイクを走らせ続けたくらいなのですから。

自分の所に雷が落ちる、なんて思う人はいません。でも、雷は恐ろしいです。雷が、見えたら、聞こえたら、安全な建物に避難しましょう。

大倉 宏(科学館学芸員)



雷の落ちたクスノキ(長居公園)。周りの木と比べて特に大きな木ではなく、もっと太く、高い木もあった。雷はどこに落ちるかまったく予想できない。

広 告